

# いわき市被災状況調査の報告

新建東日本大震災復興支援会議

(文責：鎌田一夫)

2011年7月19日、住まい連主催の上記調査が行われ、新建会員も多数参加した。これは、その参加者による調査の報告である。新建の参加者は、東京支部：渡辺政利 小林良雄 坂庭国晴、千葉支部：鈴木進 鎌田一夫、三重支部：細野良三の6名。新建以外では新協建設、建築ネット、建政研などから参加があり、総勢21名であった。調査の行程は別添1の通りである。

## いわき市の概要

いわき市は、福島県の東南端、茨城県と境を接する、広大な面積を持つまちで、東は太平洋に面しているため、寒暖の差が比較的少なく、温暖な気候に恵まれた地域です。地形は、西方の阿武隈高地（標高500～700メートル）から東方へゆるやかに低くなり、平坦地を形成し、夏井川や鮫川を中心とした河川が市域を貫流し、太平洋に注いでいます。

- (1)人口 335,560人 (2)世帯 127,471世帯
- (3)面積 1231.35平方キロメートル (東京23区の2倍)

## 被災状況

全市の主な被災状況は次の通り。

- \*死者308名・行方不明42名
- \*累計避難箇所数166箇所・最多避難者数19,813人
- \*住宅の被災：全壊6,439棟・半壊17,349棟・一部損壊18,855棟

## 仮設住宅

応急仮設住宅の要請戸数は357戸、借り上げ住宅入居は1,300世帯弱と聞いたが、この数字は被災住宅数との差が大きい理由は不明。市内の仮設住宅建設はいわきニュータウンを中心に2,120戸であるが（別添2）、いわき市自身の要請戸数は上記の通りなので、大半は広野町、双葉町、楢葉町からの要請によるものである。

福島県全体の仮設住宅建設予定は14,000戸、完成戸数12,081戸。プレハブ系が10,000戸、公募型地元系が4,000戸という割合。公募型発注に最も積極的な県である。



写真  
(上2枚)  
海岸部(平地区)の津波被害

(下左)

地盤沈下で冠水する道路



(下右)  
いわき木材加工センターで、ログはハウス部材



## 参加者の報告

### 鈴木 進（千葉支部）

調査した、いわき NT では、木造仮設住宅を大量に建設していました。

これらは、平屋の2戸1のタイプで、プレハブの長屋形式の住宅に比べ、敷地もゆったりで、住宅もかなり質の高いものでした。

福島県の状況から、被災された方々はこの仮設住宅に何年も住み続けざるを得ないことが予想されます。このような状況を踏まえた上で県の取り組みだと思いますが、被災後の混乱の状況の中でよくここまでできたと思います。また、短期間での解体を前提とした応急仮設とすれば建設費はかなり高いものですが、特に原発による被災者の方々の長期的な使用、居住環境を考えれば、やむを得ないものかとも思います。更に工夫してコストダウンを図ることは必要と思いますが・・・。1戸9坪の2戸分を1戸に改修するなどして、また、必要に応じて、基礎の補強、内装の改修や増築をすれば、公営住宅としても十分活用できるのではないかと思います。木造住宅の建設にあたり地元の大工さんを優先的に活用しているとのことで、被災した方々の働く場の確保としても、大変意味のあることだと思いました。

一方では、少しだけ離れた場所に建てられている鉄骨系プレハブ仮設住宅との格差が見立ちました。被災した地域別に対応しているようですが、割り振られた居住者の方々がどう思うか、気になります。短期間での大量供給を考えると、プレハブによる供給も必要ですが、居住環境の点では大いに改善の余地ありです。いずれにしても、鉄骨系プレハブ仮設住宅の性能の向上、木造・鉄骨系プレハブ合わせたのコストの検討は大きな課題であり、今後整理されなければならないと思います。

仮設住宅については、阪神淡路大震災の経験などから、集会所、ケア施設、食品や日用品の販売店の併設などが提案されており、福島県でも取り組まれているようです。ここでは、掲示されていた配置図から集会所が設置予定であることが分かりました。

福島県では、同時に借上住宅の取り組みを行っています。被災した方が、民間アパート等を先に契約した場合でも6万円ほどの家賃補助が行われるそうです。先行して借り上げた住宅が空いているなどのミスマッチも起こっているとのことでした。地域別の状況をもう少しお聞きしたいと思いました。

仮設住宅を含め、「仮」であっても被災地に近いところに、できるだけこれまでのコミュニティの関係が継続されて、安心して住み続けられるようにすることが大切です。これまで市町村別に避難所や応急仮設住宅の建設計画が作成されていたと思いますが、今回の大震災では、この計画も殆ど活用できなかったことも考えられます。被災状況を踏まえ、各地での仮設住宅や避難所などの設置予定個所の再検討が必要になると感じました。



また、大都市での被災の場合は、最近特に問題になってきているマンションなどの空き家の活用を検討は特に重要で、そのためには、基礎自治体による空き家の実態調査が必要だ、そんなことも考えました。

### 渡辺政利（東京支部）

1. 都市整備公団が土地造成した住宅団地にかなりの数の仮設住宅が建設されていることに驚きました。震災から時間がたっていることに複雑な感情はありますが、この仮設住宅には榎葉町など同じ町の人たちが集団で入居される予定になっているようで、生活上得難いと思いました。それにしても、こんな広い造成地が空き地のまま存在していたのはいかなることにや、とも思いました。

2. 我々が見た仮設住宅は木造2タイプと、外壁鉄板パネルの工業製品仮設住宅でした。短時間で十分吟味しながら見たわけではないので、技術者らしく詳しく語れないのが悔しいのですが、パッと見の印象では、木造住宅は工夫と優しさが伝わってくるのに対して、鉄板住宅は入居者の気持ちに添にくい冷たさと「どうせ仮設住宅でしょ」という開き直りのようなものを感じました。うーん。

3. 木造住宅の内、外壁が木の縦張りで木の合わせ部は目板張りのものは、少し工事の荒さが気になりました。縦張り木部の間の隙間がきちんと塞ぎきらず内部の断熱材が見えているなどです。まだ建設途中なので最終的には、手直しされるのですが、目板も釘打ちなので、水のしみこみが完全には止められないのではないかなどと思いました。

4. もう一方の木造住宅は、その工夫に感心させられました。梁・柱・母屋・棟木のフレームに、野地・外壁・間仕切り壁・床すべてが、厚さ30mm弱幅15cmくらいの杉板を本実あわせにして敷き込んだり、落とし込んだりした組み立てています。これならば、実に単純。材料は工場生産出来、現場では機械的に組み合わせればよいのでかなり能率的でしかもできばえが美しく清潔で優しい。なかなかの秀作と思いました。ただ、屋根にしる壁にしる床にしる、厚さ30mmの木だけなので少し断熱性能が不足するのではないかと思いました。

### 鎌田一夫（千葉支部）

いわきNTの用地内に建設中の公募型木造仮設住宅団地を見て来ました。かなり大きな団地で500棟もある様です。住戸規模を除けば大変質の高い仮設住宅で、仮設ではもったいないという感じです。いわき市だけでなく、広野町や榎葉町の被災者も入居するようです。原発被災者の「仮住まい」は長期化する恐れがあり、この程度の質は当然かもしれません。とすれば狭いことが問題ですが、幸い隣棟間がゆったりしているので増築が可能です。

いわき市は広大な市域があり、垣間見た限りでも用地はありそうです。安易な県外移住を抑えて、同じ浜通りのいわき市が原発被災者の受け入れをもっと積極的に行うべきだと感じました。原発で潰されない福島を示す意味でも。そのことを地元の市議団に言いましたが、上手く伝わらなかったようです。

平成29年7月5日

## 住まい連、いわき市被災地視察のご案内

国民の住まいを守る全国連絡会（住まい連）  
代表幹事 坂庭園晴

いわき市は274人の大津波犠牲者と大きな住宅被害、大震災の原発被害を出したにもかかわらずマスコミ報道があまりされていません。住まい連として、今後の住宅・住居支援のためにいわき市の地誌、津波、原発被害の状況視察を行います。被災地、被害住宅の現状、木造応急仮設住宅建設、仮住・仮倒に向けたボランティアセンターの取組みについて現地視察を下記のとおり実施致します。

### 記

日時：7月19日（火） AM 7:00 東京出発 → → 東京到着 PM 9:00（日帰り）

集合：御徒町 新築建設AM7:00までに、【住まい連、新協、受注連グループ】

AM 7:00 出発 ～ 常磐自動車道：いわき中央インターへ ～

AM 10:00 いわき木材加工センター 小川工場 赤井製作所 到着予定

（いわき市小川町下小川字広畑 129 tel0246-87-3888）

【NPO建築ネットワークセンター、新建グループは①のいわき木材加工センターに直行】

- ① AM 10:00 いわき木材加工センター小川工場見学 （応急仮設住宅、ログハウスのプレカット見学）
  - ・ 鈴木理事長から 500種の応急仮設住宅、ログハウスの説明
- ② AM 11:20 いわき市中央台高久二丁目 応急仮設木造住宅 200戸（入居済）現場見学
  - ・ 岡田会長のご案内  
（途中朝食）
- ③ PM 1:00 いわきニューセンタービル4F会議室（いわき市中央台飯野 4-2-4）
  - ・ 住宅の被災、支援状況を福島県建設協同組合、福島県協議会岡田会長から説明を受ける
  - ・ 被災住宅 6000件の危険度判定、震災証明発行に資格相合、建築士会が支援
- ④ PM 2:30 いわき市、海岸部（平・豊間地区）津波被害・住宅被災の視察
- ⑤ PM 4:00 ～ 5:30 いわき市役所会議室
  - ・ いわき市議、前連の復興共同センターメンバーとの懇談
  - ・ いわき市の被災状況、生活・住居支援、原発被害、仮住・仮倒に向けてなど、いわき市議センターメンバーから説明を受け懇談
- ⑥ PM 5:30 ～6:00 いわきセンター発 → 東京着 PM 8:30 ～ 9:00 頃予定

※ 現地の方々と連絡調整中であり、スケジュールの変更が有ることをご了承ください。

※ 東京から乗用車3台に乗り合わせて視察する（15人予定・出発は協議の上自己負担）

企画担当事務局 受注協 星野輝夫

（事務局 tel 03-3833-4601）

（星野携帯 tel 090-1667-5051（当日））

応急仮設住宅着工戸数(予定含む)

平成28年8月7日現在

市町村名	地区名	施設名又は住所	建設戸数	着手日	完成日	市町村	
新地町	小川	町民陸上競技場	54	3/28	4/20	新地	
			57	4/8	4/30	"	
		児童福祉	23	4/18	5/17	"	
		福白	84	4/6	6/9	"	
		新木西	48	4/12	5/12	"	
		駒の原	58	4/23	5/23	"	
		杉日	68	4/23	5/5	"	
	小計	573					
いわき市	戸長台	高久2-10-1	120	3/28	4/28	いわき	
			60	5/31	5/31	いわき(成界)	
		高久2-27-11B	45	5/9	6/3	山形	
		高久2-21	18	5/15	6/4	成界	
		高久1-32	17	5/15	6/11	"	
		高久2-13-1	50	5/8	6/3	成界	
		高久2-26-1 花	103	5/8	6/8	"	
		高久3-30	16	5/15	6/4	"	
		高久3-26-1	16	5/15	6/10	成界	
		成界2-31-1	13	5/13	6/6	成界	
	新地町	平	大野間地区多目的交流広場	82	5/16	6/10	いわき(富田)
			原がいたま公園	123	3/10	6/17	成界
			下山口字北本尾0.1棟 下山口字大沢1→4棟	202	5/23	7/20 7/7(38) 7/13(44) 7/20(118)	成界
	成界町	成界町	高田自然互遊地1	82	6/22	7/31	成界
			高田自然互遊地2	78	6/24	7/31	"
	成界町	内藤小島町	ニテノ心(株)工場用地	250	7/0		成界
			明治地区南側用地	166	7/6		成界
			88	7/28		"	
成界町	五雲	三並北築等所用地	220	7/25		成界	
		(株)成界製作所敷地	166	8/6		成界	
	成界町	山梨通商(株)社用地	51	0/10(確)		"	
	小計	2,120					
合計			14,000	着手済戸数 13,848	完成済戸数 12,201		

100%完了 13,848 94%完了 12,201

※戸数は敷地の状況等により変更になる場合があります。